

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
ゲノム医療センター	センター長 (遺伝カウンセリング 部門長)	教授	森野 豊之	脳神経内科学、臨床遺伝学
	副センター長 (ゲノム解析部門長)	教授	和泉 唯信	脳神経内科学
	データ管理部門長	教授	漆原 真樹	小児科学
		特任助教	湊 沙希	産科婦人科学
技工室	室長	准教授(病院教授)	永尾 寛	歯科補綴治療、高齢者歯科、顎補綴
	副室長	講師	大倉 一夫	歯科補綴、顎関節症、インプラント
	副室長	歯科技工士技師長	鴨居 浩平	歯科技工、歯科材料
歯科衛生室	室長	教授	片岡 宏介	口腔健康管理
	副室長	講師	福井 誠	口腔健康管理
子と親のこころ診療・ 学習障害センター	センター長	教授	漆原 真樹	小児科学
	副センター長	准教授	森 達夫	小児神経学
	副センター長	助教	山田 直輝	精神疾患、心身症
		名誉教授	森 健治	小児神経学
褥瘡対策室	室長	教授	橋本 一郎	形成外科全般
	副室長	准教授	安倍 吉郎	形成外科全般、再建外科
	褥瘡管理者	副看護師長	三谷 和江	皮膚排泄ケア
人工透析室	室長	教授	脇野 修	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副室長	助教	柴田 恵理子	腎臓内科全般、腎不全、透析
排尿ケア管理室	室長	准教授	山本 恭代	泌尿器科
	副室長	副看護部長	川原 みゆき	業務担当
看護部	看護部長		上田 美香	
	副看護部長		長谷 奈生己	総務担当
	副看護部長		白石 美恵	教育担当
	副看護部長		川原 みゆき	業務担当
	副看護部長		原田 路可	病床管理・ISO担当
	看護部長補佐		戸崎 美鈴	
	看護部長補佐		尾形 美子	
	看護部長補佐		真鍋 理絵	
	看護部長補佐		石田 伸子	
薬剤部	部長	教授	石澤 啓介	
	副部長	講師	川田 敬	
	副部長		桐野 靖	
	副部長		櫻田 巧	
	麻薬室長		生田 賢治	
	薬品情報室長		坂本 久美子	
	薬品安全対策室長		溝口 徹也	
	製剤室長		上村 卓広	
	薬務室長		菊石 美也子	
	調剤室長		石田 俊介	
	試験室長		小川 敦	
		特任助教	堀川 伊和	
医療技術部	部長・ 臨床検査技術部門長	臨床検査技師長	中尾 隆之	
	副部長・ 診療放射線技術部門長	診療放射線技師長	天野 雅史	
	副部長・ 歯科医療技術部門長	歯科衛生士技師長	真杉 幸江	
	リハビリテーション 部門長	理学療法士技師長	山田 めぐみ	
	臨床工学技術 部門長	臨床工学技士技師長	近田 優介	
		視能訓練士技師長	直江 幸美	
		歯科技工士技師長	鴨居 浩平	
栄養部	部長	教授	高橋 章	
	副部長		鈴木 佳子	
	栄養管理部門長		西 麻希	
	教育・研究部門長	教授	竹谷 豊	
		特任助教	良元 俊昭	
事務部	事務部部长		浦田 明宏	
	事務部次長・ 経営企画課長		中野 栄司	
	総務課長		兒玉 実和	
	経理調達課長		原井 由美	
	医事課長		安部 修司	

寄附講座

| Endowed Course

- 92 地域産婦人科診療部
ER・災害医療診療部
- 93 地域外科診療部
地域脳神経外科診療部
- 94 麻酔科診療部
地域小児科診療部
- 95 スタッフ一覧
高度先進整形外科診療部
スタッフ一覧

TOKUSHIMA
UNIVERSITY
HOSPITAL
2025

地域産婦人科診療部

地域産婦人科診療部は、徳島県が地域医療再生のために徳島大学に設置した寄附講座です。現在、特任准教授1名、特任講師1名、特任助教1名を配置し、徳島大学産科婦人科と協力して徳島県立海部病院の産婦人科を運営しています。診療は大学と遜色ないレベルを維持していますが、分娩については産婦人科医が1名、小児科・麻酔科医師不在などの理由により緊急を要する症例には対応が難しい状況です。これは全国のいたるところで起こっている問題で、地域産婦人科診療部では、いかに地域医療を構築するかを研究しています。

診療体制

特任准教授1名、特任講師1名、特任助教1名の3人体制で、徳島大学の産婦人科教室と協力しながら県立海部病院で産婦人科の診療を行っています。

目的

- ① 他の産婦人科病院との連携
- ② 高い診療レベルを維持するための専門医との連携
- ③ 看護師や助産師の研修システムの構築
- ④ 緩和治療における在宅や診療所とのネットワークの構築
- ⑤ 住民向けの講演や患者教室の開催
- ⑥ 医学生や研修医の地域医療に関する教育



徳島県立海部病院

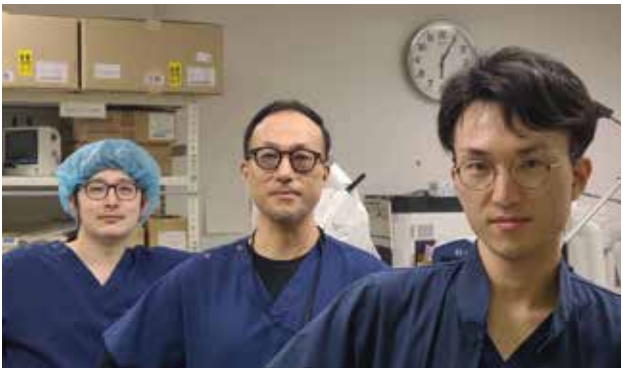
ER・災害医療診療部

ER・災害医療診療部は、2010年4月に設置された寄附講座です。

診療方針

徳島大学の救急集中治療医学講座と、徳島県立中央病院のER・ICUが連携を深め、徳島県の救急・災害医療、集中治療のレベルアップ、人材育成に貢献していきます。診療を通じて、医学生、研修医、ローテーターに対し、救急・災害医療、集中治療の面白さ、重要性を伝えていきます。遅いようでも学生時代からの人作りを地道に続けるしかないと考えています。いつの時代にも通用する教育原理は「後輩の目標となる先輩」であり、「ベッドサイド教育」です。卒後研修、専門医研修における目標は、救急・災害医療、集中治療を一貫して担当できる医師を育てることです。救急・集中治療の役割は近年ますます大きくなっています。中央診療部門として、様々な診療科から評価され、誇りのもてる救急医、集中治療医を育成しなければなりません。そのため、救急・集中治療を通じて全身管理ができることを目標

とします。たとえば、救急医療を実践したい人は県立中央病院ERで、集中治療をじっくり経験したい人は大学ICUで、教育研修を受けるというプログラムを作って交流を深めていきたいと考えています。



ER・災害医療診療部

地域外科診療部

徳島県の外科診療は、外科系志望医学生の減少、医学生の都市部志向、ベテラン外科医の勤務医離れにより崩壊しつつありますが、へき地ではさらに厳しい状況です。このような状況下でへき地病院において手術を中心とした効果的な診療支援を行うこと、遠隔医療支援システムを駆使した教育システムを導入することで若手医師にとって魅力ある研修体制を確立することを目指します。

診療体制

消化器外科2名、呼吸器外科1名の計3名の外科医師で構成され、県立三好病院で手術を中心とした診療支援を行っています。

診療方針・運営方針

所属する3名の外科医は、消化器外科（上部・下部消化管、肝胆膵）、呼吸器外科の専門医であり、手術、化学放射線療法といった一連のがん治療を三好病院で完結できる体制づくりに努めています。

①地域の患者さんが安心できる医療の提供

消化器・呼吸器疾患は、へき地でも症例の多くを占めており、救急疾患も含めて休日・夜間も可能な限り診療、手術に対応しています。また、高齢者が多く、より身体への負担の軽い鏡視下手術を積極的に行っており、消化器がん（胃、結腸・直腸）の約6割は鏡視下手術を行っています。徳島大学病院がん診療連携センターと連携し、遠隔診療システムを用いてCancer Boardを配信し、がん診療の均てん化を図っています。

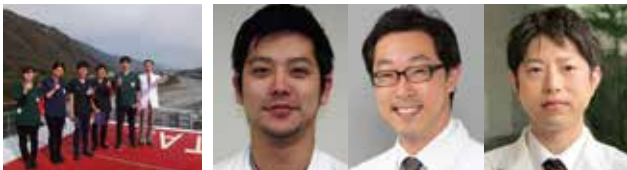
②若手医師の確保・養成

徳島大学や県立病院群とのネットワークを活用した医療支援体制の強化を引き続き行っていきます。都市部と同じように鏡視下手術などの高度医療を行っていくことは、初期・後期研修医の獲得に寄与すると考えています。

大学のクリクラ実習で消化器・移植外科を回っているグループに2週間のうち1日学外実習を行っており、三好病院にも来てもらいました。また、選択実習で1週間三好病院に来てくれた学生には、西祖谷診療所での診療見学も行いました。

③研究（手術などの遠隔医療支援）の推進

大学病院、県立病院とインターネットを利用した遠隔医療システムを構築し、双方向の音声・映像の通信が随時可能となっており、手術指導やLive Surgeryの配信を行ってきました。手術だけでなく検査、画像診断やカンファレンスなどにも応用可能です。今後も遠隔医療支援システムを活用し、さらなる診療支援体制の構築に取り組みます。



地域脳神経外科診療部

徳島県は、東部に比べて南部や西部との医療格差が大きいことが近年の課題となっています。

県南部（特に海部地域）は、以前は急性期脳卒中を専門的に診療できる医療機関が無く、地域内で発症した脳卒中患者は症状の重篤性に関わらず県東部までの搬送を余儀なくされていました。2011年（平成23年）に地域脳神経外科診療部が開設されたことにより外来診療が毎日可能となりました（それまでは週1回のみ）。これにより脳卒中患者をはじめ脳神経外科疾患を24時間受け入れるだけでなく、リハビリなどの機能回復目的で慢性期患者の受け入れも今まで以上に可能になり、地域に根差した診療が行えるものと考えています。

県西部にはかねてから徳島県立三好病院で脳神経外科専門医による診療ができる体制があります。しかし24時間365日対応できる体制とは言いがたく、徳島県立三好病院の常勤医師の負担が大きくなっているのが現状です。2018年（平成30年）からは地域脳神経外科診療部のスタッフが徳島県立三好病院で週1回の外来診療を行っており、県西部の脳神経外科診療の充実を図っています。

診療体制

特任教授（併任）、特任講師、特任助教の計3名の医師で構成されています。

診療方針・目的

①急性期脳梗塞患者に対してのt-PA治療・血管内治療

日本のみならず世界的に標準的治療であり、県東部の基幹病院と同様のt-PA治療・血管内治療を受けられるように努める。

②急性期重症患者のトリアージ

急性期脳卒中、頭部外傷に関して院内医師と協力してトリアージを行い、海部病院・三好病院で治療可能な患者と急性期外科の治療が必要な患者を判断する。手術難易度の高い外科的治療が必要な患者のみ県東部基幹病院へ搬送する。救急隊の海部郡外搬送の減少・負担軽減、患者・家族の負担軽減につなげる。

③脳神経手術の実施

④リハビリ・慢性期病棟の充実

⑤県東部基幹病院との遠隔医療ネットワークの整備・構築

⑥医学生・研修医に対する地域医療に関する医学教育の実践

麻酔科診療部

麻酔科診療部は2017年に設立された寄附講座です。
特任教授1名、助教1名が徳島大学病院と徳島県立中央病院にて周術期麻酔管理を行っております。
徳島大学では最先端の手術を受ける患者様に対して最も安全で安心できる麻酔管理を目標に、徳島県立中央病院では増加する手術、多くの緊急手術にも素早く対応できるよう常勤麻酔科医と共に診療を行っております。
近年、手術は進歩し、麻酔の安全性はさらに高まっているとはいえ、高齢化に伴い様々な合併症を有する患者様が増加しています。それにも関わらず地方では麻酔専門医が充足しておらず、安全な麻酔管理を受けられないところもあります。そのような中、徳島大学と徳島県は協力し、このような講座が設立されました。
大学病院では最先端の麻酔管理や研究、中央病院では重症救急患者に対する全身管理などを通し、研修医の教育にも力を入れて、麻酔の魅力を感じてもらい新しい麻酔科医を育てることも目指しております。



地域小児科診療部

地域小児科診療部は、平成30年4月1日より開設された診療部門です。
この診療部は、徳島県が現状の小児医療体制(徳島県東部、南部、西部各地区)の地域医療再生のために徳島大学に依頼して設置された寄附講座です。徳島県の小児救急医療体制は、東部は徳島県立中央病院、南部は徳島赤十字病院、西部は徳島県立三好病院およびつるぎ町立半田病院が行っていますが、これら救急医療体制には、徳島大学病院小児科・地域小児科診療部が寄与しています。
さらに、小児救急、周産期・新生児医療に加えて、慢性期の福祉・保健・在宅医療など地域での継続した医療の確立をめざし、徳島大学病院小児科と協力し、徳島県の小児科医療体制を如何に構築して充実させていくかを研究しています。



高度先進整形外科診療部

高度先進整形外科診療部は、2023年4月より開設された新しい寄附講座です。本講座は徳島県全域にわたって子供から高齢者に至るまで、専門性の高い運動器(整形外科)疾患の診療の充実を図ると共に、内視鏡手術やロボット手術を含めた一歩進んだ医療技術の提供と開発を目指します。

特任教授1名、特任助教1名の2人体制で、大学病院整形外科、県立中央病院をはじめとする県関連施設と協力し、診療を行います。
参考:徳島大学整形外科ホームページ<https://utokushima-orthop.com/seikei/>

徳島県県西部は“四国のへそ”と呼ばれてきたように、香川県・愛媛県・高知県の3県と接し、医療圏も四国4県に跨っています。したがって徳島県県西部(四国のへそ)の医療を充実させることは、徳島県内はもちろん四国全体の医療を充実させることに繋がると考えられます。またその取組みを県西部だけでなく県南部にも広げ、大学病院や関連施設と密に連携することで、重症患者の受け入れもスムーズに行い、安心した医療を提供できることを目指します。



徳島県立三好病院 高度先進関節脊椎センターにて

	役職	職名	氏名	専門分野
高度先進整形外科診療部	部長	特任教授	酒井 紀典	脊椎・脊髄外科、スポーツ医学
		特任助教	松村 肇彦	脊椎・脊髄外科